

平成 22 年度 第 1 回 矢作川水系総合土砂管理検討委員会 議事概要

日 時：平成 22 年 10 月 13 日（水）14：30～16：20

場 所：レセプションハウス名古屋通信会館（6 階 蘭の間）

1. 開会挨拶（矢作ダム管理所長）

2. 委員会、部会の運営について

- ・ 矢作川水系総合土砂管理検討委員会の設立趣意書（案）、規約（案）について、事務局から説明が行われ、案のとおり決定することが了承された。
- ・ 矢作川水系総合土砂管理検討委員会の検討概要とスケジュールについて、事務局から説明が行われ、その内容が確認された。

3. 委員長、部会長の選出

- ・ 互選により、委員長に名古屋大学大学院辻本教授が選出された。
- ・ 互選により、矢作ダム排砂工法検討部会部会長に名城大学鈴木名誉教授が選出された。

4. 議事

（1）情報公開について

委員会の情報公開方法については、次のとおりとすることが了承された。

- ・ 委員会の情報公開については、議事概要及び資料の公表により行う。
- ・ 部会の情報公開については、委員会への報告を通じて行う。
- ・ 議事概要及び資料の公表方法については、下記のとおりとする。

- ① 委員会終了後、議事概要及び資料は、事務所のホームページに掲載するとともに、事務所の閲覧コーナーで閲覧できるようにする。
- ② ただし、個々の対策（工法）の特許に関わる事項、個人のプライバシーに関わる事項で公表により個人又は法人に不利益を与える恐れがある場合、又は特定の野生生物の保護に著しい支障が及ぶと認められる場合などは、委員会の判断によりその一部または全部を非公開とする。

（2）昨年度までの検討経緯について

昨年度までの検討の経緯について、事務局から説明が行われ、その内容が確認された。

（3）総合土砂管理プランの検討について

土砂管理の基本方針と土砂管理プランの構成、流砂系の目指すべき姿、土砂管理目標

等の検討状況について、事務局から説明が行われた。各委員からいただいた主な意見、質問等は以下のとおり。

- ・ 排砂シナリオとプランの相違は何か。シナリオは空間的に個別に存在し、プランはその全体を包含あるいは統合するようなものという理解で良いか。
- ・ そもそも土砂の連続性の概念、価値観はどういうものなのか。どういった場面で連続性を保たないといけないのかを整理すべきである。
- ・ 流砂系の目指すべき姿の実現に向けた基本方針の5項目は並列なのか、優先順位を持っているのか整理が必要である。
- ・ 矢作川らしい河川環境を目指すというところが、下流からの視点での土砂管理の動機である。土砂が堆積する場合には維持管理に何らかの工夫をし、トータルとして、環境と治水がバランスするようもっていく。
- ・ 治水安全度を今のレベルより高めていくという整備計画の目標の中に内包される土砂管理計画であるならば、その制約条件の中でものを考えなければいけないということもよく認識しておく必要がある。
- ・ 昭和40年代のダム領域は水質が悪く、当時の魚類や底生動物は現在より貧弱であったことから、この時代の生物相を目指すのは好ましくないのではないかと。それ以前、高度成長期以前の状態ということになるが、具体的なデータはほとんどない。
- ・ ダム群の湛水区間とその間の区間の自然な環境が1つの生態系として成り立つとか、人間の営みと共存しながら自然も確保する土砂の連続性がどうあるのかを追求して頂きたい。
- ・ 施設計画と土砂管理プランの目標期間との関連はどう考えているか。
- ・ 施設整備計画としては30年を対象だが、管理とか環境管理は本当に30年だけでいいのか等難しい問題であり、重要なポイントと思われる。
- ・ 土砂管理目標は個々の満足すべき機能に留意する必要がある。目標をどういう表現方法で書くべきか、そのこと自体にも非常に検討の価値、重要性がある。単に目標とする量だけを出せばいいということではなく、満足すべき機能の要件から目標の量はレンジや上下限など管理上の指向性があることに留意し、分かりやすく集約していくことが重要である。
- ・ 土砂管理目標に関しては、量ですべて整合がとれば良いが、予測計算には誤差や幅があり、管理の指向性（これ以下ならいい、これ以上であってほしい）の問題もある。分かりやすさを保持しつつも、どういう手法をさらに工夫してこれに加えるべきか、何か工夫が必要となる。
- ・ 土砂管理目標を設定した後、きちっとモニタリングして、マネジメントにフィードバックされる仕組みをつくる必要がある。

(4) 報告事項

- ・ 平面二次元河床変動計算による環境影響の検討予定、置き土実験・覆砂実験の実施状況等について、事務局から報告が行われた。

5. 閉会

—以上—